

地域医療を育てる会 情報紙 クローバー

CLOVER



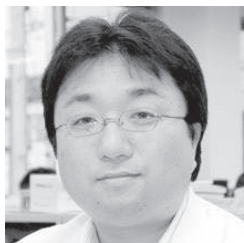
発行 代表 NPO法人地域医療を育てる会
藤本晴枝
http://iryousodateru.com/
第74号 平成27年12月5日発行
東金1142「東金の家」内
TEL:090-7634-7175

なじみの店が閉店!

その時、あなたの健康は...?

近くにあるスーパーマーケットが閉店したら、遠くのお店に行きますか?自分で買いたい物に行けなくなったらどうしますか?食品を自由に買えなくなることは、健康に直結する大問題です。来年3月のくらしの講演会では、この問題を取り上げます。講師の中野智紀先生にインタビューをしました。

中野先生がお勤めの東埼玉総合病院は、埼玉県北東部の幸手市にあります。お隣には杉戸町があり、この2つの市町の住民と、病院とを結ぶのが院内にある在宅診療連携拠点「菜のはな」です。今回は、菜のはなの中野先生はじめ、スタッフの皆様にお話を伺いました。



中野智紀先生

地域の冷蔵庫が開まるまで

今年3月に、杉戸町にあるスーパーマーケットが閉店しました。小さいながらも、郵便局替わりでもあり、宅急便の窓口でもあり、食料品も取りそろえ

た、いわば地域の冷蔵庫のような便利なお店でした。このお店があった地域は、昭和40年代に新興住宅ができて人が増えた所です。以来50年が経ち、住民は高齢になりました。年を取る一人あたりの購買力が減り、高齢化地域では買い物をする人の数も減ります。そんな時に、少し離れた場所に大型店がオープン。品揃えも多く価格も安いため、若い人や健脚なお年寄りはこちらに買いに出かけるようになります。こうして、近くにあった小規模の「地域の冷蔵庫」は閉店してしまいました。

フードデザート

ー 食の砂漠ーとは

スーパーが閉店して、買い物に行けない人が困っているーそんな情報が菜のはなに届きます。中野先生

は「フードデザート」という言葉でいろいろと調べてみました(コラム①参照)。

偏った食生活は低栄養に繋がります。近年、日本の高齢者の間で低栄養問題が深刻化しています。低栄養状態に陥ると免疫力が落ちるので感染症などへの抵抗力が低くなり、肺炎などになりやすくなります。また認知機能にも影響が出るので、低栄養の方は認知症になるリスクが高くなるのです。このように自立した生活がますます困難となり、介護の必要性も高くなるのが指摘されています。また、食生活の乱れが様々な生活習慣病を悪化させ、命にかかわることもあるのです。菜のはなのスタッフは地域に向いてみると、お寺の住職さんからは「自力

で移動できないお年寄りが、かなり困っている。宅配サービスの品物はどれも価格が安くないので、手が出せない人も多い」といった話も。ご飯に塩をかけただけの食事をする人もいるなど、このままでは地域の人々の健康状態が悪化するのでは?とスタッフは危機感を持たそうです。

「これは単に一つのスーパーが閉店して不便になったというレベルの問題ではありません。買い物に行けない人は、食事のほかにも生活面でのサポートが必要な人もあります。こういう人が一人でも地域にいるのなら、地域として何か手を差し伸べなくてはならないと思います」と中野先生。

**主役は住民
菜のはなは、後方支援**

この窮状に対して真っ先に動いたのは、スーパーのあった地域の地区長さんでした。地区長さんは、商工会や行政のほかに、地域にいる様々な人に声をかけます。声をかけられた人がまたほかの人に声をかける中で、市民主催でフードデザートワークシヨップ(参加者が自主的に活動する講習会)を開くことになりました。

このワークシヨップを契機に、当地域では住民の間でいろいろな取り組みが始まっています。その一つが、八百屋さんの移動販売。「自分の代で店じまい」と思っていた店を息子さんが継いでくれることになったご主人。息子さんがこの地域の窮状を知り、「トラックで品物を運んで、移動販売をしたい」と言います。採算を考えれば二の足を踏む商いですが、「息子がやる、といっていることを応援したい」と親子二代で移動販売に踏み切りました。

とは、「地域でこういう問題があるそうだ」という情報が市民に伝えることだけ。しかし、それも「このことは誰に伝えたらよいか」「どこに情報を届けたら効果的か」を菜のはなのスタッフが知っていればこそ出来たのです。

菜のはなでは日ごろから地域の各所で「暮らしの保健室」を開いて健康相談をしたり、対象地域のお宅を一軒ずつ訪問して暮らしや健康に関する聞き取り調査をしたりするなど、地域の情報を積極的に集めています。そして、困っている人には個別に電話連絡や訪問をしたり専門機関を紹介したりすることで、地域の人々の信頼を得てきました。人々が「菜のはなに相談すれば何とかなる」と思っているからこそ、スーパー閉店のように見医療とは関係がなさそうな情報も入ってくるのですね。

さらに、問題によっては菜のはなのスタッフから地域の市民に相談や依頼が出来るのも大きなポイントです。病院という専門機関も、地域の一員として助け合い・支え合いの輪の中に入っているのです。

**くらしの講演会に
いらっしやい!**

幸手市、杉戸町で起きたことは、私たちの地域でいつ起ころうともおかしくないことです。いえ、もしかしたらすでに起きていることかもしれません。その時、私たちの地域ではだれが、なにが出来るとしよう?

「くらしの講演会」では、中野先生にフードデザートと健康、そして病院も含めた市民の取り組みについて詳しくお話しいただきます。そして参加者同士で話し合う時間も設けます。皆さんも、是非「自分のこと」としてこの問題を考えてみませんか?

平成二十八年三月六日(日)午後一時から、東金市ふれあいセンターにて一緒にしましょう!
(コラム②参照)
(藤本晴枝)



コラム1

フードデザート(食の砂漠)

フードデザート地域に住む人々の間では、「低栄養」などの健康被害が拡大していることが危惧される。イギリスやアメリカでは、フードデザート地域における健康被害に関するレポートがある。しかし、日本の多くの自治体ではフードデザート問題を十分に認識していない。

フードデザートが深刻になる地域とは

- ・社会的弱者(高齢者、低所得者など)が集まって住んでいる
 - ・商店街の消失などにより、買い物環境が悪化している
 - ・家族・地域コミュニティの希薄化に伴い、日常生活の中で助け合うことが出来ない
- 例) シャッター通りが増える地方都市の中心市街地、農山漁村、近所付き合いがない高齢化団地など

コラム2

「くらしの講演会」のご案内

なじみの店が閉店!その時、あなたの健康は...?

とき 平成28年3月6日(日)午後1時開会
※午後4時終了予定

ところ 東金市ふれあいセンター 多目的室

基調講演 中野智紀先生

分科会 「行きつけのお店はどこですか?」

まとめ

申し込み・問い合わせ (2月24日まで)

東金市社会福祉協議会

電話 0475(52)5198 FAX (52)8227

Eメール togane.shakyo@cronos.ocn.ne.jp